

ついに念願の カラーザウルス 入手に成功！ インターネットに 接続してみたぞ。



カラーザウルス編

illustrator : Kaori Takahashi



カラーザウルスにインターネット機能搭載。

ども。私が、インターネットマガジン付録CD-ROMの裏(?)側はヒゲ剃り時の鏡代わりに使えることを発見して喜んでいる用途変更探検家……じゃなかった、インターネット探検隊長のムラノです。

さて今回、編集担当M女史から与えられた探検目標は、家電業界の小さな恐竜「ザウルス」。93年に発売以来、3年間で6回というすさまじいモデルチェンジを繰り返しながらも、推定1億人(根拠なし)と言われる世界の文房具ヲタクにカルトチックな人気を誇っているアレです。

ま、探検前からナンですけど、実はわたくし、正直言ってこのテの製品ってちょっとばかし馬鹿にしていました。だってね、だいたいこういうのって、かつてのプラモ小僧のなれの果てのオヤジが「カミさん怖いし、パソコン買うのもな~」って感じで買っているとかのイメージ……ね、だったでしょ? それに、いくら持って歩いて便利だって言っても、いいたしこいたオトナがいちいち手書き文字でチョコチョコデータを入れるの図なんて“ちょっとイジマシんでないかい”

的存在だったわけ。

しっかぁ~し、なんか違うぞお、今度のザウルス! ってなことで、今回、特別に探検目標として選定された、そのわけは? バックライト付きでカラーになったから……じゃなくって(分かてるくせにい)インターネットなワケですね。

まあねえ、考えればサラリーマン向けの雑誌のみならず、いたるところでインターネットで革命騒ぎの昨今だから、こりゃ、いくら目のつけどころがシャープでなくてもそうなるわね。

というわけで、オヤジ機能満載で快進撃を続けるザウルス、ついにインターネットのメールもウェブに対応。となると天下のご意見番、インターネット探検隊もほっぽはおけぬ、というわけで今回の探検、始まり始まりい(しかし、逆に考えると、インターネットって今やオヤジ機能になっちゃったわけね、ぶしゅう)。

① マニュアル3冊分の豊富な機能とは？

それにしても、こやつの人気は大したもので、「編集部から与えられた」なんてすんなり書いてしまったけど、実は編集部内でひっぱりだこ状態。普通なら、「あ、ムラノさん、マシン来てますから持ってってください」てな具合になるんだけど、今回に限っては編集部員が入れ替わり立ち替わりやって来ては、いじり倒すこと……。当然、探検隊長は触らしてもらえない。

オプションの豪華デジカメモジュールが付いていたこともあって、待つことば3時間。終電も近くなり、我に返った編集部員が1人減り、2人減り……。ついにザウルスくんと対面……。ま、はっきり言ってこれまで一番苦労した探検機材調達であることは確かデス。

そんなこんなでやっと手にしたこのマシン、をおをお、かわいそうに手垢と指紋がべたべた……。と思いきや、実はザウルスの表面はツヤ消し塗装なので、しっかりした手触り。汚れや指紋はあまり気にならない

(ただし液晶画面のとは別ね)

じっくりながめると、サイズと重さはなんとか片手で持てる程度。ただし、横長なので手持ちの状態ではつらそう。

まずは、フタを開ける。と……おっとこのフタでぐるーっと裏まで回り込んでじゃまにならない作り。さすがに電子立国日本の製品である。

メインの液晶画面をはさんで、左には「情報ファイル」「インデックス」「ザウルス通信」「デイリープラン」「スケジュール」「アドレス帳」「インクワープロ」「フォトメモリー」「カード」というラベル、右には「メニュー」「機能」「中断」「切」「送信(光通信)受信」「逆送り」「順送り」などのラベルがある。ま、ザウルス風GUIってやつで、あらかじめアプリケーションが並べられているというところ？

先ほど編集部でかわいがられてた様子からベンでたたけばスイッチが入ることは分かっているの、早速、付属のプラスチックペンで画面をたたく。と地球を描いたスタートアップ画面に続いて出てきたものは……げげ、なんだこれ？



ザウルスはひっぱりだこの大人気。

オプションの豪華デジカメモジュール：カラーザウルスには、デジカメが付いている「MI-10DC」(定価155,000円)と付いていない「MI-10」(定価120,000円)というモデルが販売されている。

GUI：文字でコマンドを入力しなくても、マウスを使って画面に表れた画像を操作して実行する規格。Graphical User Interfaceの略。

② デジタルカメラが付いたカラーザウルス「MI-10DC」



② インターネットに接続した画面。

① 今回使用した機材の問い合わせ先
新形態情報ツール カラーザウルス
液晶ペンコムMI-10DC
(デジタルカメラ付き・写真左)
定価：155,000円
販売元：株式会社シャープ
TEL：0120-303909

モデムカード
Suntac MS288CF
定価：39,800円
販売元：株式会社サン電子
TEL：0120-863810





マニュアルが3冊も付いてきた!



3種類の通信ポートあり。まさにタコ足状態?

そこに現れたのは、某編集者の顔写真をベースに落書きした画像。うぬ、確かにこのマシンにはオプションのカラーデジカメが付いているから、写真が撮れても不思議はないが、写真の上に絵や文字が描けるというのはなかなか「使い手」がありそう。

ついでに思い付きでこの画面を触ってみると、画面がぐにゅぐにゅ動く。パソコンの画像処理ソフトで言えば「画像をドラッグ」というやつだが、あまりにレスポンスがよくて「振り回す」という言い方のほうがピンとくるほどの軽さだ。うむ、こやつ、意外と大物かもしれない。

ま、そんなことはともかく、早速機能の確認を……と思い、付属の取り扱い説明書をチェックしようと箱の中を見ると、なんと3冊。しかも「はじめて…入門編」「くわしく…活用編」「通信する…ザウルス通信編」のそれぞれが200ページもの大作ぞろい。これは普通の家電の“取説”としては異様としか言いようがない。

たしかに、ザウルスってやつは家電みたいに、なんとなく使い方が分かるってものではない。なんつーか、使いこなすためにはそれなりの知識が必要というか……そういう意味ではパソコンと似ている点が多い。

じゃ、パソコンかっていうと、あらかじめアプリケーション（しかもオヤジ機能てんこ盛り状態）が入ってるわけだし???で、こりゃ何だ状態になっちゃうわけだが、しかし、よぉ～く考えてみるとこれが情報家電ってやつかあ?

取説というよりマニュアルの中身をパラパラ見てみると、まさにマシン解説+アプリ機能を紹介しながら「覚えてね」のオンパレード。イラストも豊富で文系オヤジにもよおっく分かるように書いてある。こんなことをメーカーにやられちゃあ、むずかしいマシンが出るたびに儲けさせていただいていたライター立場が……というもんである。

それにしても3冊まとめると600ページにおよぶこの機能。どうやって紹介したもん

だか……。連載をやってもこの調子だと3年は持ちそう（でも6か月後にはきっとニューモデルが出そうな気がする）と悩むこと数分。出した結論は……、今回は、いわゆる“お便利ツール”の類には涙を飲んでもらって、通信、それもインターネット関係だけを中心に探検してみよう（ホントはパソ通やFAXだとか、赤外線を使ったPCとの通信もできるんだぎゃあ～ZAURUS）。

🌀 タコ足モデムマシン

インターネットと言えば、メモリーはなくともまずモデムである（ウソ）。

実はこのザウルス、小柄なわりに食欲で、なんと3種類の通信ポートを持っている。1つは画面の上のほうの電話マークの付いているフタを開けると出てくるモジュラージャックの口。もう1つはオプション取り付け用PCカードスロットにカードモデムを付ける方法。最後は画面左上にある「オプションポート15」という場所で、ここにはデジタル携帯電話アダプターという高値(!)の花が付いてしまうのである。

最も安上がりなのは、標準装備のモジュラージャックを利用することだが、これが驚きの通信速度=2400bps。ま、テキストベースの通信ならなんとか我慢できるかもしれないが、いまどきパソ通でもふつー9600でしょうが、と突っ込みを入れたくもなる。と言ったところで思い出したのが、普段使っているラップトップマシンのために買ったカードモデム。なぁんだ、こいつを使えば28.8Kbpsがばっちりじゃん!というわけで、さっそくザウルスのデジカメ部分を本体から分離する。カードを挿入してみると、さすが業界統一(?)のPCカードだ。別の家電メーカーのもでも問題なくばっちり入る。

画面の左端にある「ザウルス通信」にタッチすると、「Internet」「NIFTY」「パソ

コネット」というメニューや、「メール送信」から「プリンタ」まで16種類のメニューが表示される。ここで当然「Internet」を選ぶ。と、右下のほうに「使用モデム」という項目が出てくる。右側が「内蔵」になっているので、ここをワンタッチすると「内蔵」「外部」「カード」という3つの項目が出る。もちろんカードを選択……と、なんとチャランという音とともに「モデムが認識できません」というダイアログボックスが……??

紙面の問題もあるので結論だけ書いておくと、実はこのスロット、どうやらこのものでもいいというわけではないらしい。編集部でも試してみたところ、ことごとく他メーカーのモデムカードは認識してもらえず、シャープご推薦の「Suntac MS288CF」というものを入れたら、やっと受け付けてもらえた(注1)。

ザウルスの使用モデムを「カード」に設定したあとで、その下にある「モデム設定」をペンでつついてみた。すると一瞬、音も出なければ画面も変わらないという状態のあと、画面が切り替わる(実はほんの1秒足らずなのだけど、これまでの動作が速かったのでやたら遅く感じてしまい、いらぬところをクリックすると画面混乱……それは私です)。

この画面で「転送スピード」のメニューを28800にセットして「設定」をタッチすれば、モデム関係は終了して元の画面に戻る。

🌀 手書き文字認識に問題あり?

さて次のステップだが、実はこのザウルス、まだプロバイダーと契約していない人のために、富士通系のプロバイダー「InfoWeb」(どういふご関係?)に簡単に申し込めるプログラムが内蔵されている。画面の右上のほうにある「入会手続」というボタンをクリックすれば、画面が切り替わる。ここでは「InfoWeb入会手続」に

同意したあと、手続画面でユーザーの氏名、よみ、住所、クレジットカード番号などを入れることになる。

今回はいつも使っているプロバイダーに接続することにして、「接続先」のボタンをクリックする。画面が切り替わり、接続先のリスト画面が出るので、ここで「新規入力」ボタンをタッチ。すると、接続先の名称、よみ、電話番号などの入力画面が現れる。下にはソフトウェアキーボードが現れる。

これはおよそすべてのところで同じだが、こと漢字や平仮名といった文字入力はザウルスで文字入力が必要なようになっていないとけっこう面倒だ。まだ体験してなければ、キーボードの右肩にある「文字」を押すと入力方法が選択できるので、ここでザウルスご自慢の「手書認識」を試してみるのもいいかもしれない。子どものころ文字の書き順をいかに加減に覚えていたりすると、ちょっとした苦労が楽しめる(?)。

どうやらザウルスに文字を認識してもらうためには、それなりのコツのようなものが必要(字がきれいで書き順が正確ならそんなものはいらぬ?)みたいだが、下手にコツを飲み込んで丸文字ならぬザウルス文字になったらどうしよう、とか、左利きは大丈夫かななどの疑問噴出となること請け合いである。キーボードに慣れた人なら、「タイプライター」モードで入力したほうが楽かもしれない。

これに続いて「接続条件設定」のボタンにタッチして、別の入力画面で「設定1」から「設定5」の各ページでパスワードなどの必要項目を入れていく。

登録を途中で止めたい場合などは、画面の左上にあるクローズボタン(ここはなんだかマッキントッシュ風)をクリックして終了するのだが、接続先の登録が終わったらプロバイダー名にタッチするだけで最初の画面に戻ってくれる。

自分のつないでいる回線が「トーン」か



手書き文字認識は意外とむずかしい。



ザウルスのホームページは、なかなかよくできているぞ。

Suntac MS288CF : 今回使用したサン電子のカード型モデム。

注1 : シャープからザウルス専用のモデムカード、「CE-AM02 (14.4kbps)」(定価26,000円)や「CE-AM03 (28.8kbps)」(定価42,000円)が販売されている。



ザウルスには、URLの自動収集機能もある。



付属のデジカメで撮った写真も送信できる。

JPEG：画像のファイル形式。圧縮されてデータ量が小さくなっているため、ホームページに載せる画像などはこの形式がよく使われる。Joint Photographic Experts Groupの略。

オートサーフィン機能：本誌8月号で紹介した「Perman Surfer 波乗野郎」がこの機能を持っている。

オフラインサーフィン機能：本誌9月号で紹介した「Netscape History」がこの機能を持っている。

「パルス」かを指定し、さらにスピーカーでモデムのコネクションまで音を出すかどうかなどの設定を終えたら、インターネットコネクションの準備は完了だ。

画面はつらいが、最新のウェブ機能を搭載

ところで、この画面の上の部分を中心にみると「Internet(WWW)」となっていることが分かるだろう。うむ、ここでも「インターネットってあの絵の見えるやつね」ということになってるらしいが、ま、それはいいとして、早速ウェブを見ることにする。

設定はすでに終わっているのだから、ウェブを見るには「接続」のアイコンにタッチするだけだ。ザウルスが自動的に電話をかけ、プロバイダーに接続してくれる。特にウェブの設定(初期画面の「条件設定」にある)を触っていない場合には、ザウルスのホームページ(<http://www.wildbird.or.jp/zaurus/>)が出てくる(余談だが、ここはここでなかなかよくできたページなので、一度、普通に探検してみたいもんである)。

ブラウザはザウルス独自のもので、ネットスケープのように各種のコマンドブロックが揃っている。最近常識の17インチスクリーンに慣れた目では、けっこう小さくてつらいが、読めないわけではない。部分を拡大してみる機能もあるのだが、これを使うと全体が分からなくなってしまうので、この機能は画像拡大用と考えたほうがいいだろう。

もちろん、別のウェブページにもURLを入力することでジャンプすることはできる。この入力にはキーボードを使えばいいのだが、ここで「せっかくだから手書きで……」なんて考えてやってみると、「0と0(オーとゼロ)」とか「/」とか、一発で認識できない文字がけっこうあって、またもや楽しい(?)苦勞をすることができる。これは検索エンジンのキーワード入力などでも同様なので、もうウェブの中に入ったら手書

認識という機能はあきらめてしまったほうがいいかもしれない。

さて、画面内にJPEGファイルがある場合、最初は「JPEG呼び出し」というブロックで表示され、これをクリックすることで画像の変換が行なわれるという形式で、スピードを求める人にはちょっと面倒な二段構えだ。しかし、カラー液晶の画面に次第に絵が出てくるさまは感動的と言えなくもない(こう書いているうちに、自分自身もザウルスのオモチャ性に取り付かれてきたのではないかという気もするが)。

ほとんどの部分は「まあ、こんなもんだろね」という程度に納得することができるが、1つ大きな問題は、特定のサイトに対するアクセスについては「Your browser sent a non-HTTP compliant message」なんてと言われてアクセスできないページがあることである(<http://www.cnn.com/>など)。

こんな小さなマシンでちゃんと海外のウェブページを取ってこれるというのは感動ではあるが、もっと面白いのが最近このコーナーで紹介した「オートサーフィン機能(指定したURLを巡回して、そのページをローカルにストックしてくれる)」や「オフラインサーフィン機能(キャッシュにため込んだウェブページを回線切断後にゆっくり見せてくれる)」といった「ネットサーフィンお便利ツール」が、ちゃんと揃っていることである。まさに幕の内弁当的美学の結晶であるザウルスの本領発揮というところ?

快挙マルチメディアメール

通信関係だけでも200ページを超えるザウルスの機能を7000字以内で紹介するという無謀な今回の企画。事前の心配どおり紙面も少なくなってきたので、残された通信アプリケーションの中で特に面白いものだけをダイジェストしておこう。

まず取り上げたいのはメールでの画像通信だ。

最初に書いたように、今回の探検で使ったザウルスにはオプションのデジカメが付いていた。液晶の表示面積が大きいせいもあるが、実はこの付属のカメラがなかなかいい。まずどんなモードにいても、スイッチを入れれば画面が自動的にカメラモードに切り替わり撮影が可能になる(もっとも切り替えに若干時間はかかる)。さらに、取り込んだ画像を再生しながら写真の上に落書きができるという機能も楽しいのだが、もっと面白いのはこうして作成したグラフィックスが簡単にメールでできてしまうところだ。

画像を表示している画面の上にある封筒アイコンをクリックすると、メールへの添付ファイルとして登録される。送り先を事前に登録しておけば、数ステップで電子メールにJPEGファイルとして送ることができる。相手がザウルスであればもちろんだが、添付ファイルを自動的に受け取れるメールソフト(base64を扱える必要がある)を持っていてJPEGファイルを見ることができる人であれば、誰にでも送ることができる。ボタン1つで送信が始まり、転送が終われば自動的に回線を切ってくれるので、非常に簡単に画像ファイルを送ることができる。

次に面白いのが音声メール。

これは、インデックス画面から「ボイスメモ」を選ぶと出てくる、ザウルスに内蔵されたデジタルレコーダーを利用することになる。録音は新規録音のソフトボタンを押して本体中央にあるマイクラしき場所に向かってしゃべるだけ。あとは画像ファイルと同様、通常のメールに添付して送ることになる。

画像の場合は送られてくるファイルがJPEGだし、インターネットに接続されているパソコンのほとんどがJPEGを扱うソフトを持っているので問題はなかったが、音声ファイルのほうはどうやらザウルス独自のフォーマットのように、デコードできず、こりゃ残念ながら音声ファイルのインターネット端末での受信は無理かな……と考えて

いたら、実は先ほどのブラウザでアクセスしたザウルスのウェブページに、変換用の「ザウルス情報ビューアVer1.0」が登録されていた(<http://www.wildbird.or.jp/zaurus/zl/pub/cgi-bin/dew/download/zview.html>)。

これを使えばパソコンでもザウルスから送られてきた音声ファイルを再生することができる。残念ながら、ウィンドウズ95/3.1用でマッキントッシュには対応していない。これって例のPDA規格提携の話のゆくえと関係ある?

🌀 家電以上パソコン未満の奥深〜い機能

まだまだ遊び足りない(おっと)点もあるが、今回の探検では「ザウルスはマルチメディアメール機能が出色」という評価を与えることにしたい。

また携帯機器の必須科目、電池の問題だが、ハードディスクがないせいか、意外に持ちがよい。これでPHSでの高速接続が可能になれば、フィールドワーク用の携帯端末としての実用性もさらに高まることになりそうだ。

それにしても、幕の内弁当的美学を追求するお便利ツールのラインナップと、それを支える初心者向けパソコン以上に詳しいマニュアルのていねいさ。これはもはや家電ではない。かといってパソコンでもないけれど……というわけで、目のつけどころがシャープなのはいいけれど、とんでもないところに入り込んだものだ、と感心しながら今回の探検を終わろう。



ザウルスで送られてきた音声ファイルは専用のビューアで再生できる。



カラーザウルスの情報が満載。音声ファイルの変換ができるビューアもダウンロードできる。

URL <http://www.wildbird.or.jp/zaurus/>

base64 : 電子メールでバイナリーデータを受け取るための変換方式の1つ。ほかにuuencodeやBinHexなどの方式がある。
PDA : 携帯用小型端末。Personal Digital Assistantsの略。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp